



## 大遠忌を迎えて

高田 慈昭 (たかだ じしょう)

親鸞聖人の七百五十回大遠忌を迎えます。五十年に一度の意義深い勝縁しょうえん であります。

思えば、七百五十年たった二十一世紀の今日、数百万をこえる門信徒が聖人の遺徳をたたえて大いなる仏事をいとないとな 営むということは、いかに偉大な感化を後世にのこされたかということの意味です。聖人が開顕された浄土真宗の法義は、他に類をみない絶対他力の究極の宗教的真理といえるからです。

それは、万人平等すみ に速やかに究極の仏果涅槃ぶつかねはん にいたらしめる、まさに超世希有ちょうせけう の正法しょうぼう を開示されたからであります。

地獄行きの極悪人を一人もさらず救うて、速やかにいのちの安心をあたえ念仏の一法しょうじ によって生死をこえて浄土のさとりと与えしめたもう阿弥陀仏の本願力ほんがんりきえこう 回向おんどく の法義を鮮明にされた聖人の偉業と恩徳を今更ながら感受せざるをえないからであります。

専精院せんしょういんせんみょう 鮮妙師がんかい しんけ ぶんぼん がいわれていましたが、願海ほんかい に真仮を分判ぶんぱん せらるような法眼ほうげん をもたれるお方は還相げんそう の菩薩と思わざるを得ないと。やはり聖人はただ人でなく浄土からこのおみりを伝えにきてくださったお方だとさんごうさんごう 讃仰せざるをえないのであります。

煩惱ぼんのう 具足の凡夫ぐそく ぼんぶ とみきわめられた人間観せいきつ の省察と、絶対他力の大悲の救済を徹視して、往相還相、教行信証きょうぎょうしんしょう の法門を確立ゆいきょう していかれた聖人の遺教は、二十一世紀、いや永遠にこの地上に展開して人類を潤うるお していくことでしょう。

聖人の教えの特色は、本願にえこうしほう (仏の大悲の誓願) を根源的基調として展開していく二回向四法の法門であります。

往相の教も行も信も証も還相摂化も、すべて如来の誓願から展開しています。聖人がしばしば「大悲の願より出でたり」とのべられているように、教えのすべてが如来大悲の誓願にもとづいて展開している法門であることを注目して味わねばなりません。

人間のねがいに先んじて、仏のねがいを基調にして、仏にねがわれてあるいのちの世界であります。この仏のねがいによって人生の根本的な課題である生老病死しょうろうびょうし、愛憎違順あいぞういじゆん をこえていく普遍的な仏道が聖人によって示されたのであります。

しかし今日、聖人の宗教的自覚と救いの論理がいかにもすぐれて深いものであっても、知性的人間観にすわる近代思想と、哲学的思考を見失って現実の実利的な思潮の中にある多くの現代人の感覚では、容易に理解し把握することが難しいものになっています。

そのためには、平易な現代的表現をもって伝道することは必須の要件ですが、単なる言語表現だけではなしに、現代人に理解しうる解釈を用いることが大切でしょう。たとえば、生死とか煩惱とか浄土、涅槃といった仏教語の意味を現代人の知性心情に理解し得られるような十分な説明が必要ではないかと思われま。

科学技術が進歩し文明がいかに発達しても、人生の生老病死、愛憎苦悩といった本質的課題は変わりありません。

つぎに、浄土真宗の信を得ることは、仏の智慧と慈悲の全徳を領受することです。人間の我執、自己中心の執着、この我執をきびしく批判して無我平等の生き方を学び実践し、他人の苦悩を共感して慈悲心をもって自他平等の幸せを念じて行動するところに念仏者の生きざまが存するといわねばなりません。

「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」とのべられた聖人のことばは、『大無量寿経』にとかれた「仏の遊履したまふところ・・・天下和順し日月清明なり、風雨時をもってし、災厲起こらず、国豊かに民安くして兵戈用ゐること無し。徳を崇め仁を興し、つとめて礼讓を修す」の文によられたものでしょう。

仏法のひろまるどころには、念仏者の行動によって世に安穏平和が実現し、環境がととのえられ、戦争は起こらず、道徳をあげ、礼節を重んじて互いにゆずり合い支え合う、心身共に豊かな国家や社会が実現するであろうとべられているのであります。

二十一世紀以来、欧米においてもようやく東洋の叡智としての仏教にめざめ、仏教真宗に帰依する人たちが増加しつつあります。さらにみ教えが浸透していくためにも、国際的な海外開教の発展に宗門予算を傾けて尽力していかなければならないと思います。

国内開教、とくに百万人の門徒をめざして今日最も緊要なことは首都圏の開教であります。総人口の約三分の一程が東京を中心とする首都圏に集中しており、その人口の増加はすさまじく、しかるに真宗寺院が最も少なく、無宗教、精神的砂漠といった状況をみるにつけ、宗門が物心両面にわたって周到な準備計画体制を築いて、その推進をはかることであります。

さらに、マスメディアを通じて真宗を宣揚し、社会福祉（少子化、高齢化の問題、災害対策支援活動、環境問題等）にかかわる基幹運動の積極的实践等、このたびの大遠忌を縁として改めて自覚実践にはげみたいことであります。

（司教）